

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:人間科学部・人間科学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		リーディング大学院教育プログラムの成果が部局教育に広く取り入れられ、部局が目指す共創知教育として還元されている点が評価できる。 また、部局の経費を用いて、未来共生イノベーター博士課程プログラム在籍学生12名をトロント大学に派遣し、海外研修(大阪大学およびトロント大学の教職員による英語での授業、実習)を行ったこと、また、来年度に向けて、未来共生プログラムの同研究科への内部化を具体的に検討し、共創知教育にかかわる授業科目数が飛躍的に上昇する予定であることが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		平成30年度日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進授業「実社会対応プログラム」として全国で採択された8件のうち、本部局から2件採択されたことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		未来共創センターが中心となり、企業との大阪大学オムニサイト協定を新規に5件締結し継続分と合わせて計10件とするなど、大学と社会の「結節点」の構築を進展させたことが評価できる。また、未来共生センターを中心としたサイエンスカフェや市民対象のイベント、公開講座等の実施件数は前年度を上回っており、社会学連携の促進が認められる。
【グローバル化】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。
		大阪大学ユネスコチェア「グローバル時代の健康と教育」が、日本全国での採択件数がわずか4件の中で、大阪大学として初めて採択されたことは非常に高く評価できる。今後は、学内7部局、海外20機関、国内5大学、2研究機関、地方自治体、企業・法人と連携し、アジア地域における「健康と教育」に関わる教育研究拠点としてのネットワーク作りを通じ、教員や学生の国際的な交流の推進と地域コミュニティへの貢献を期待する。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		大阪大学の改革の方向性に合わせた教員人事の基本原則と将来構想を検討し、若手教員の採用計画や女性および外国人教員の採用計画等を定めた点、さらに大阪大学ユネスコチェア運営のための担当要員を雇用するなど、部局の目標と計画に沿ったポスト運用を行った点が評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)について、意欲的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 また、常勤教員に占める女性教員の割合について、積極的な採用に努めることで実績を大きく伸ばし、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。</p>
--